

# 宇治山田港湾整備（みなとまちづくり）に向けての提言

## フォローアップ <修正版>

- I 提言フォローアップの骨子 1
- II みなとまちづくりの目標 2
- III みなとまちづくりの基本的な考え方 3
- IV みなとまちづくりの柱と主な施策 5
- V アクションプログラム(第2期戦略) 24
- VI 構想推進に向けて 25



平成22年11月1日

宇治山田港湾整備促進協議会



提言フォローアップ修正にあたって

平素は、当協議会の運営に対し、多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

平成 22 年 1 月 28 日に「宇治山田港湾整備（みなとまちづくり）に向けての提言フォーアップ」を取りまとめ伊勢市、三重県、国土交通省など関係機関への提言を行ってまいりました。

提言フォローアップは、宇治山田港旅客ターミナル施設の有効活用を柱の一つに掲げておりましたが、設置者の市において、市議会平成 22 年 6 月定例会で、旅客ターミナル施設を撤去し宇治山田港と中部国際空港とを結ぶ海上アクセス事業を終焉させることが決定されました。当協議会といたしましては、市の決定を真摯に受け止め、拠点ターミナルを海の駅神社とする提言フォローアップ修正版を取りまとめました。

宇治山田港は歴史文化豊かな港であります。当該地域では、自治会やNPOなどの関係者が連携協力し、かつての船参宮の再現や、伝統行事の復活、環伊勢湾・三河地域との交流、海の体験交流イベントの開催など、新たな交流拠点をめざし宇治山田港を核とするみなとまちづくりに取り組んでいます。

また、昨年 11 月には、関係者による「勢田川等水面利用対策協議会」が国により設置され、長年の課題であったプレジャーボート対策の検討がすすめられています。当協議会としても、積極的に取り組んでまいります。

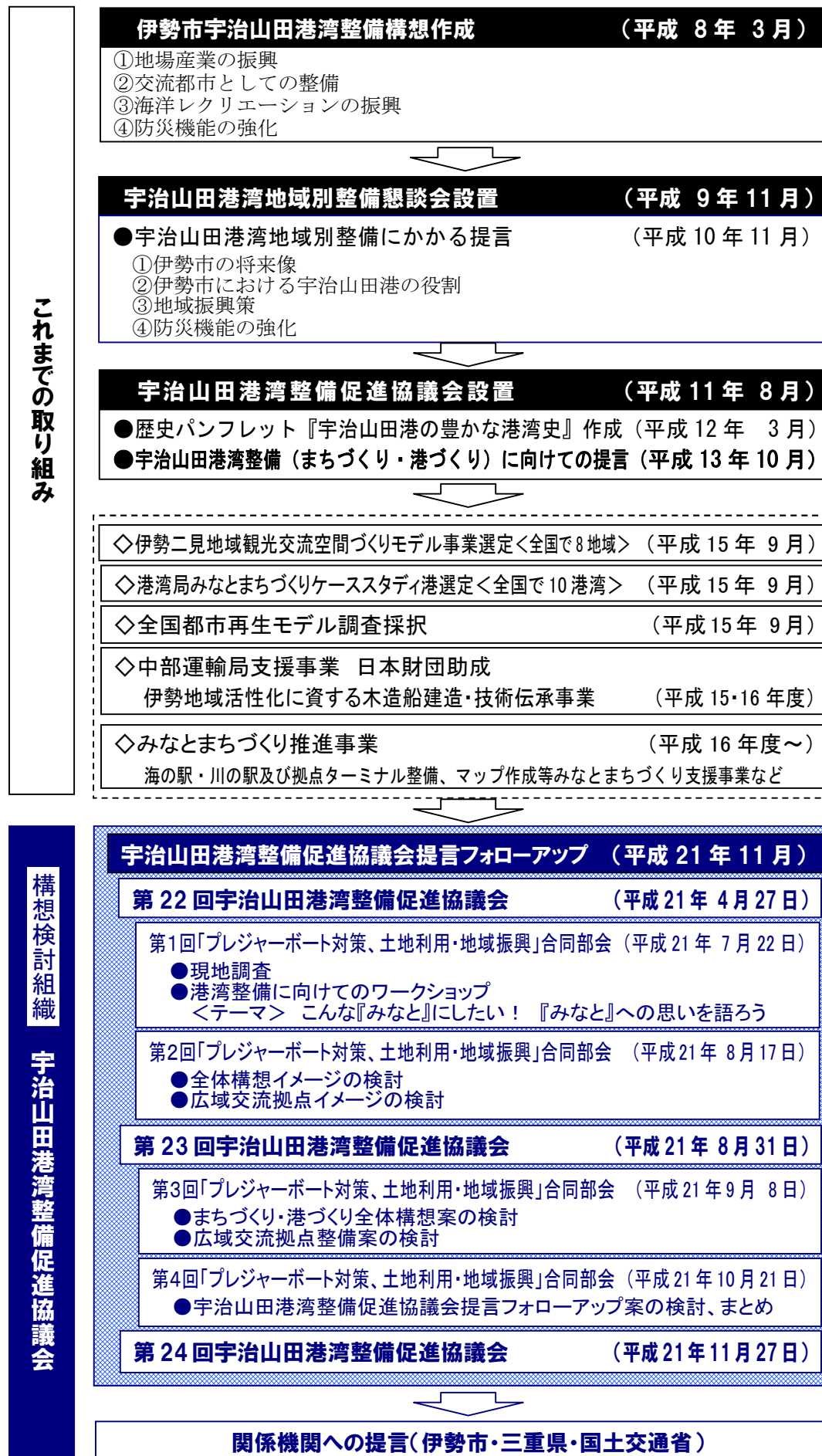
引き続き、地域が主役となり、豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景に「市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり」を目指し取り組んでまいりますので、今後とも、官民一体となつての事業推進を是非お願い申し上げます。

平成 22 年 1 月 1 日

宇治山田港湾整備促進協議会

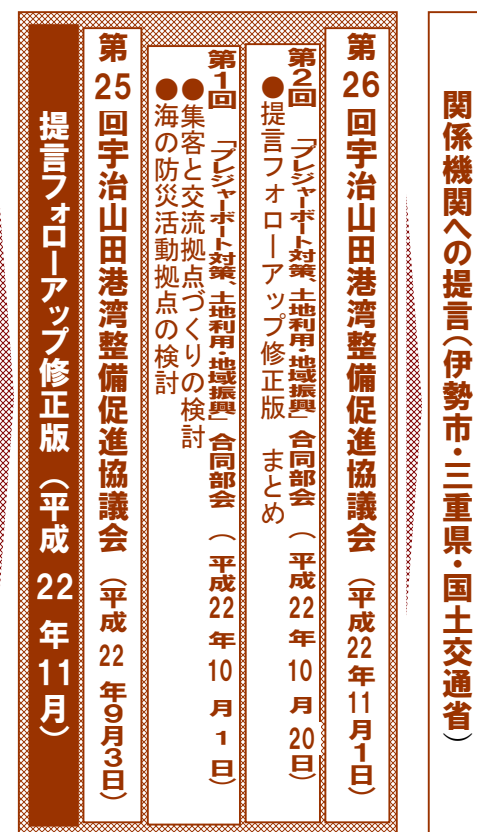
会長 中村 清

みなとまちづくり構想 主な経過



構想検討組織

宇治山田港湾整備促進協議会



# I 提言フォローアップの骨子

## みなとまちづくりの目標

～新たな広域交流拠点めざして～

豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした

市民や訪れる人々がふれあい、  
あまねく人々を癒すみなとまちづくり



## みなとまちづくりの柱と主な施策

### 1 『まちの宝物』発掘・活用

- 『まちの宝物』発掘・活用

### 2 宇治山田港へのアクセスづくり

- 海上アクセスの整備
- 陸上交通の整備

### 3 集客と交流拠点づくり

- 広域交流拠点づくり
- クルージングネットワークづくり
- 川の魅力づくり
- 海岸の魅力づくり
- サイクリング・ウォーキングルートづくり
- 歴史・文化の継承
- 市内交流拠点・観光資源との連携

### 4 地場産業の振興

- 造船業の振興
- 漁業の振興
- 農業の振興
- 新産業の創造

### 5 防災機能の強化

- 海の防災活動拠点整備
- 護岸の整備

### 6 交流の推進

- 交流の推進

### 7 マリン・生涯学習の充実

- マリン・生涯学習の充実

### 8 プレジャーボート対策

- 水面利用に関するルールづくり
- 施設整備などの受け皿づくり

## 第2期アクションプログラム

### 重点プロジェクト

#### I プレジャーボート対策の推進

##### 1 プレジャーボート対策

- (1) 水面利用に関するルールづくり
  - ① 水面利用のゾーニング
- (2) 施設整備などの受け皿づくり
  - ① 係留施設の整備

#### II みなとの活用

##### 1 集客と交流拠点づくり

- (1) 広域交流拠点づくり
  - ① 宇治山田港「海ノ駅神社」の利活用
  - ② 広域交流拠点整備計画の策定
- (2) クルージングネットワークづくり
  - ① 体験イベントの実施
  - ② 環伊勢湾・三河湾との交流
- (3) 川の魅力づくり
  - ① 川まちづくりとの連携による魅力づくり
- (4) サイクリング・ウォーキングルートづくり
  - ① 体験イベントの開催
  - ② モデルコースづくり

#### III 地域が主役となる「みなとまちづくり」の展開

- 1 『まちの宝物』発掘・活用
- 2 交流の推進
- 3 マリン・生涯学習の充実



# II みなとまちづくりの目標

～新たな広域交流拠点めざして～

## 豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした 市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり

宇治山田港は、五十鈴川、勢田川の河口に位置する地方港湾（昭和27年9月1日指定）で、宮川本川の右岸下流端から夫婦岩までを港湾区域とする河口港です。

かつて、勢田川上流の河崎港、河口附近の神社港、大湊港よりなり、全国各地からお伊勢まいるの客を乗せた船や外来の物資を集散するさまざまな船が往来していました。

大湊は、豊臣秀吉が朝鮮出兵に使った日本丸を建造するなど、伝統ある造船のまちとして栄えました。また、南北朝時代には吉野と東国を結ぶ中継港として栄えました。

神社港は、五十鈴川、勢田川に通じる水運の要地で、外来の物資を集散する幾多の船が往来し、これに伴う海運業や船宿を営むものも多く、造船業の発達を見たこともあります。

河崎港は、住民と大勢の参詣者の生活物資を供給する間屋街として発達しました。

また、宇治山田港は、風光明媚な海岸を持ち、「日の出」で全国的に有名な夫婦岩や明治15年日本ではじめて海水浴場が誕生し、海水浴場発祥の地として公認された二見浦海水浴場もあります。

現在、周辺地域への砂利・砂など建設用骨材供給や沿岸漁業の基地としての役割のほか、沿岸地域では、関係者が連携協力し、かつての船参宮の再現や伝統行事、海の体験交流イベントの開催など、地域住民によるみなとまちづくりへの取り組みがすすめられています。

宇治山田港は、地域住民を主体とする市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒す新たな広域交流拠点として再生します。



### 歴史・文化



日本丸模型



織田信長朱印状  
 織田信長 朱印状 大湊町歴史会 所蔵

### 伝統行事



篠島御幣綱神宮奉納

### 市民活動



みなとまち通信



みなと祭り



体験イベント

### 新たな海の玄関口



往時の宇治山田港



海ノ駅 神社



河崎「川の駅」



どんどこ丸  
 みすき  
 船参宮の復活

### 環境対策



勢田川きれいにプロジェクト



放流艇による環境悪化



夫婦岩



二見 賓日館



河崎 魚市場付近



大湊町立造船徒弟学校実習工場



二見浦海水浴場



大湊 神宮貯木場



市川造船



# 宇治山田港湾整備 全体構想イメージ



## 宇治山田港（地方港湾）

宇治山田港は、伊勢市南端を流れる五十鈴川・勢田川の河口に位置する地方港湾で、宮川本川の右岸下流端から夫婦岩までを港湾区域とする河口港です。往時は勢田川上流の河崎港、河口附近の神社港、大湊港よりなり、全国各地からのお伊勢まいりの客を乗せた船や、外來の物資を集散するさまざまな船が往来していました。

徳川時代の中期には、大湊、神社港は伊勢内陸の外港として、河崎港は住民と膨大な参宮者の生活消費物資を供給する問屋街として発達。明治に入ると、豊橋・蒲郡方面、神戸・大阪方面との航路が開かれ、さらなる発展を遂げました。

昭和の初めになっても市内に出入りする物資は、その8割が大湊・神社・河崎の3港によるものだったといえます。しかし、その後の陸上交通の急速な発展とともに港勢は徐々に衰え、なかでも内港の河崎港は回船問屋群の姿はとどめているものの、港としての機能は失われました。

現在は、神社・大湊・一色・今一色・二見地区に大別され、神社地区の砂利・砂など建設用骨材取扱い量は県下有数の規模を誇ります。大湊地区は歴史をもった造船技術を営々と引き継ぐ中・小型船建造を主に、一色・今一色地区は漁業の基地として、また二見地区は春や秋には観光客、夏は海水浴の人々でにぎわいを見せています。

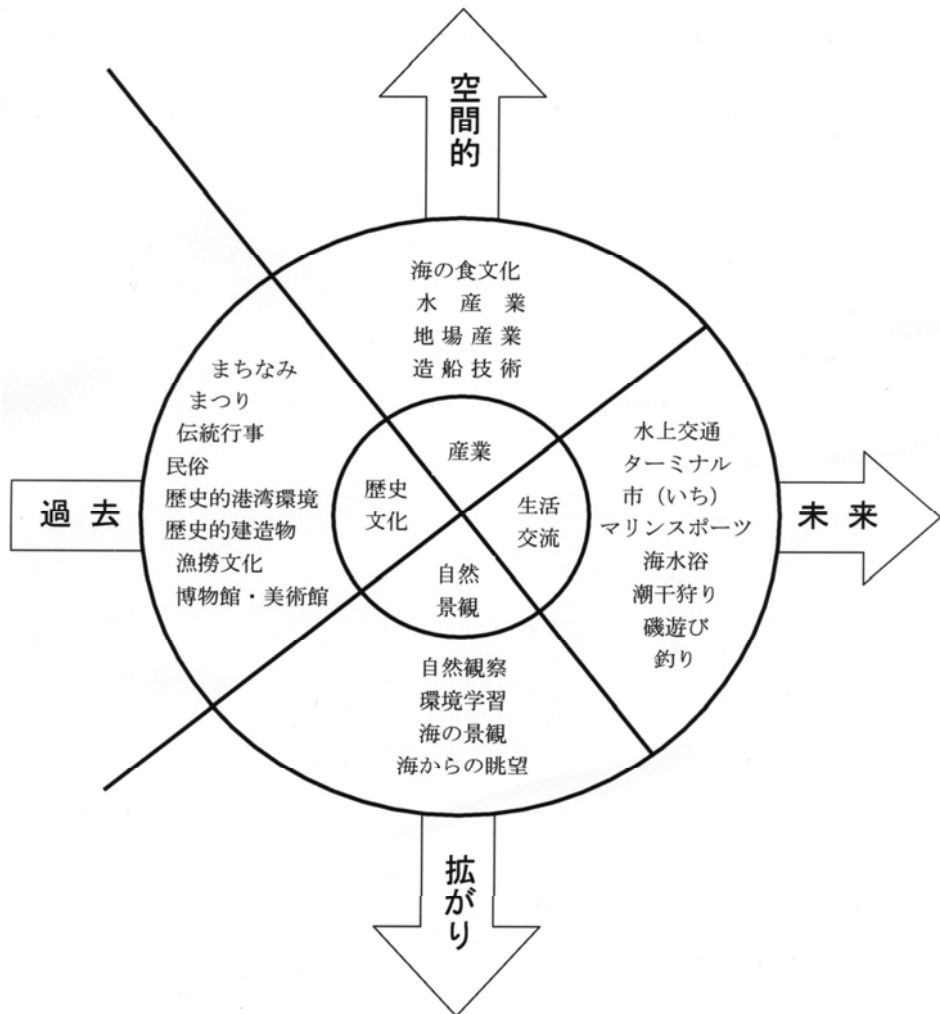


# III みなとまちづくりの基本的な考え方

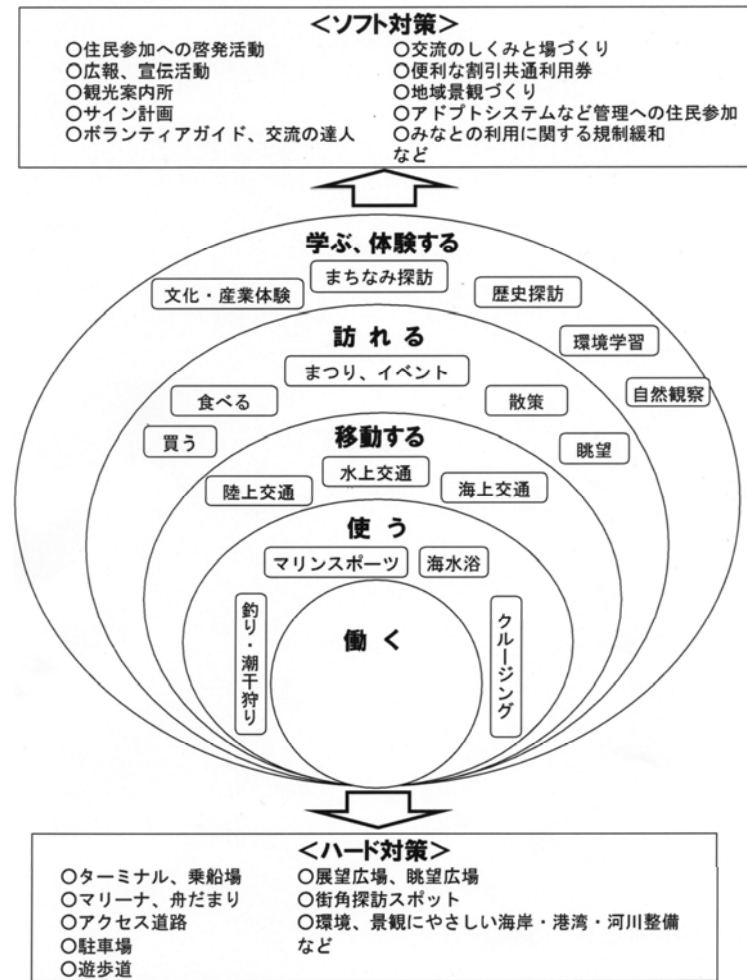
## 視点

- 1 みなとまちづくりに活用が考えられるテーマや資産
- 2 人とみなとのかかわり
- 3 災害時におけるみなとの活用

### ア 時間と空間的拡がり



### イ 人とみなとのかかわり



### ウ 災害時におけるみなとの活用

生活支援等防災拠点など

# IV みなとまちづくりの柱と主な施策

みなとまちづくりの柱	主 な 施 策	みなとまちづくりの柱	主 な 施 策
1 『まちの宝物』発掘・活用	<b>1) 『まちの宝物』発掘・活用</b> ■歴史・文化、社寺仏閣、伝統行事、まつり、プレジャーボート、造船業、漁業、農業	4 地場産業の振興	<b>1) 造船業の振興</b> ■プレジャーボートの修理等ホスピタル機能の付加、FRP船りサイクルシステムの検討など  <b>2) 漁業の振興</b> ■荷捌き場の整備、後継者の育成、観光漁業の充実など  <b>3) 農業の振興</b> ■朝市、観光農園・市民農園の整備、花栽培  <b>4) 新産業の創造</b> ■マリーナ、小型船舶等の運航
2 宇治山田港への アクセスづくり	<b>1) 海上アクセスの整備</b> ■伊勢湾・三河湾 ■宇治山田港（勢田川・五十鈴川）  <b>2) 陸上交通の整備</b> ■臨港道路の整備 ■交通結節点の整備	5 防災機能の強化	<b>1) 海の防災活動拠点整備</b> ■緊急物資輸送基地の整備  <b>2) 護岸の整備</b> ■港湾・海岸の整備
3 集客と交流拠点づくり	<b>1) 広域交流拠点づくり</b> ■宇治山田港 広域交流拠点整備構想  <b>2) クルージングネットワークづくり</b> ■交流ネットワークの確立 ■クルージング受入機能の整備 ■クルージング体験イベントの実施  <b>3) 川の魅力づくり</b> ■川の魅力づくり  <b>4) 海岸の魅力づくり</b> ■宇治山田港海岸 大湊地区 ■宇治山田港海岸 二見地区  <b>5) サイクリング・ウォーキングルートづくり</b> ■ルートの検討、整備  <b>6) 歴史・文化の継承</b> ■宇治山田港の豊かな港湾史の研究 ■資料館の建設 ■まちかど博物館の整備 ■河崎歴史文化交流拠点の整備 ■二見町茶屋地区観光交流拠点の整備 ■歴史・文化のネットワークづくり ■能楽舞台の建設  <b>7) 市内交流拠点・観光資源との連携</b> ■市内交流拠点・観光資源との連携	6 交流の推進	<b>1) 交流の推進</b> ■地域間交流、 ■地域振興イベント
		7 マリン・生涯学習の充実	<b>1) マリン・生涯学習の充実</b> ■マリン（海洋）教育の充実、 ■生涯学習の充実
		8 プレジャーボート対策	<b>1) 水面利用に関するルールづくり</b> ■水面利用のゾーニング  <b>2) 施設整備などの受け皿づくり</b> ■係留施設の整備 ■係留施設の管理・運営



# 1 『まちの宝物』発掘・活用

## 方針

### 施策1 『まちの宝物』発掘・活用

地域には、歴史・文化、社寺仏閣、伝統行事、まつり、プレジャーボート、造船技術、漁業、農業など『まちの宝物』がたくさんあります。市民の手でさらに『まちの宝物』を発掘し、まちづくりに活用していきます。

## 大湊 【おおみなと】

### 造船で栄えたまち

大湊は古くから造船業で栄えたところ  
です。伝承によれば4世紀、神功皇后が新  
羅へ出兵する際ここで軍船を建造したと  
いわれています。平安時代末には源頼朝  
の名で軍船を建造し、御朱印を受け廻船  
の中心になったともいわれています。他  
のゆかりの人物として、倭姫命、義良親王、  
北高親房、織田信長、角屋七郎次郎秀持、  
徳川家康、豊臣秀吉、九鬼嘉隆など多彩です。  
戦乱の時代には、奥州、坂東、東海、河内、  
九州と行き来する廻船から情報が東湊や  
勢田川筋にもたらされました。県指定有  
形文化財大湊古文書によると、中世以来、  
時の勢力交替に対して一定の独立性を持  
ちながら、いち早く徳川勢力との関係を  
深めています。

造船技術は非常に高く、天保13、14年の  
記録によると造船の得意先は勢州、尾州、  
二州、阿州、讃州、摂州、伊豆、武州に亘り、  
大は1700石、1800石の新造22艘、作事10  
艘に及んでいます。また、造船と共に大  
正期までは和釘の生産が盛んでした。

「500石以上の大船は西洋型とする」との  
布告が明治20年から実施されると、大湊  
の造船所では早速三本マスト甲板張りの  
洋式船の建造に取り組み、また技術者の養  
成を目的として町立の造船徒弟学校を設  
立し、若手経営者達が自ら講義し、現場の  
熟練者が実習指導しました。現在の伊勢  
工業高校の前身にあたります。



写真1/明治時代・実習工場

### 勢田川流域 大湊 案内



**大湊大仏 (おほとけさん)**  
大湊郷地には「おほとけさん」と呼ばれる石仏  
が2体あり、東にあるのが聖徳太子、西が阿鼻陀  
如来です。元禄8年(1695)、伊豆の石村で、江  
戸の石工が造ったと伝えられます。県内では最  
大の石仏です。

### 忘れ井と倭姫命

倭姫命が大湊に立ち寄りたとき、大湊  
に住んでいた鬻取の船が冷たい水を  
差し上げたところ、倭姫命はたいそう  
喜び、水を汲んだ井戸のある地に「水  
養社」を定め、大湊の浜を「鬻取の  
小浜」と名づけた。その後、鬻取の  
小浜を「鷺ヶ浜」、井戸を「忘れ井」  
と呼ぶようになった。  
また祭神を水戸御霊郡神とする  
水養社は明治40年に日保見山  
八幡宮の境内に移され  
ました。

### 宮川

この神社付近は大湊屋敷といわれ、住民の多くは神職で  
伊勢神宮に御進する途を獲っていました。  
明治の大湊で塩田は跡形もなくなるといって大湊番を  
受け、若三郎神社も消失しましたが元禄21年に再興し、  
その後、外宮の末社となりました。

### 日本の歴史と共に

大湊の造船の歴史は古く、神  
功皇后が海路遠征するための  
船を建造した古代までさかの  
ぼります。特に有名なのは、戦  
国時代織田信長が造らせて、毛  
利水軍を撃破したという鉄甲  
船(鉄甲船)です。豊臣秀吉の朝鮮  
出兵の180人乗りの旗艦「日本  
丸」も、ここで造られた九鬼水  
軍の「鬼宿丸」です。また関ヶ  
原の合戦と大阪夏の陣の時に、

徳川氏の船奉行小浜与惣次郎  
が大湊に来て大船13艘づつを  
建造しました。

伊能忠敬の測量船、白瀬中尉  
の南極探検船等、著名な船を建  
造しています。

元禄時代からの造船所「市川  
造船所」には、伊勢湾台風の波  
害で、和船の資料は残念ながら  
あまり残っていませんが機軸  
あいのこの重文クラスの資料  
も保存されています。

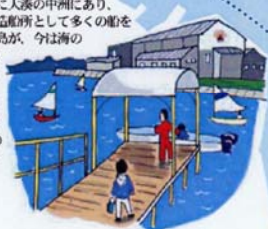
### 海に開かれた工業都市

造船が栄えた江戸時代、大湊  
は近隣のまちとは違い漁業に  
従事するものはほとんどなく、  
工業都市でした。

造船と共に特に造船が多く、  
大正期まで和釘の生産が盛ん  
でした。釘問屋は常夜灯など  
多くの寄進をして豪華の跡を  
残しています。しかし今では  
船泊屋も、わずかに軒となりま  
した。

### 海の駅と グリーンキアランド

市川造船と共に大湊の中洲にあり、  
かつては強力造船所として多くの船を  
建造してきた島が、今は海の  
レジャー基地  
として、また  
工場として  
運営されてい  
ます。大湊の  
「海の駅-川の  
駅」はこの  
核核です。



**神宮貯木場跡 (阿場池)**  
大湊小学校の西側道路から南瀬水路  
に囲まれたところは神宮貯木場跡  
阿場池と呼ばれ、昭和20年代まで神  
宮の造船御用材の貯木場として使わ  
れていました。御造材材は木曾から筏  
でここに運ばれ、内宮へは五十鈴川を、  
外宮へは宮川を、それぞれ上って運ば  
れていました。トラック輸送に替わり、貯  
木場としての役割を終えたため埋め立  
てられ、現在の池になっています。

### 源氏山

南北朝時代に義良  
親王(後村上天皇)  
が武將たちと源氏山  
に陣を張り、大船53  
艘を調え東北に向け  
て出陣しました。

### 義良親王御乗船跡

大湊造船所跡  
私邸跡  
日保見山  
八幡宮  
源氏山  
大湊小学校  
大湊郵便局  
大湊公民館  
大湊図書館  
大湊公園  
大湊駅前  
大湊駅前  
大湊駅前

### 灯明台跡・波除堤先端

1816年に築かれた6.3mの  
灯明台は松材で造られて  
いました。当初は菜種油を燃  
やして光源にしていましたが、  
明治30年(1898)には屋根か  
ら丸い柱を突き出した石油  
ランプを使う灯台に建て替  
えられました。これは赤と  
白の光を出し、海上20km先  
から見えたといいます。現  
在は「大湊波除堤」の碑が  
建っています。

### 築屋敷

大湊にはかつて多くの  
船宿などがありました。  
寛文5年(1665)に埋め  
立てを行い、船宿などを  
移転して集めたのが車  
町です。当時は築屋敷  
と呼ばれ、多いときには  
53軒ほどの船宿があっ  
たといわれています。

### 大湊まちあるきマップ



### まちの歴史 こぼれ話

#### 山田奉行と波除堤

山田奉行は1603年(慶長8年)伊勢の有流  
に置かれ、6代奉行花房志摩守の時に御園  
村小林に移転しました。大湊は高瀬や津波  
の被害を受けやすく、当時から堤防など改  
修をしてきました。今も一部、当時の波除  
堤の石積みが残っています。

中でも享保13年(1728)、享保17年の二度  
にわたり工事をした奉行、保科波路守には  
感謝の意を込め、顕彰碑が建てられています。  
また安政元年(1854)の大地震、また大湊波  
で壊れた堤の改修をした秋山安房守は、病  
気のため小林で亡くなった後、大湊の長楽  
寺の墓地に葬られました。



写真2/昭和初期・大湊の堤防  
(写真1、2 撮影行先伊勢「ふるさと」の思い出写真集 伊勢)より転載



# 神社港

【かみやしろみなど】

## 伊勢の海の玄関口だった港町

神社港は万治年間(1658~61)に港が開かれたといわれます。以後、海の玄関口として大いに賑わった港です。中でも伊勢参宮する時は鐘や太鼓で伊勢音頭をはやしながら入ってきたので、地元では「どんどこさん」といって歓迎していました。明治時代には益々栄え伊勢湾に定期船が開かれてからは各地からの参宮客が殺到し黄金時代を迎え大いに栄えました。また物資の積出港として、沖を通る千石船の風待ち港でもありました。

明治20年神社港地誌調査による神社港の船舶、貨物の出入り状況は、一カ年の出入り船舶3500艘100以下10以上の蒸気船8艘年間約1900回出入りとなります。

港周辺には船関係の商店、宿屋、遊郭が沢山あり、芝居小屋等もあり賑やかだったそうです。今もその面影を残す古い家並み、建物を少し垣間見ることができます。遊女を置いている船宿も多く遊郭街を形成しており、「はりしがね」と呼ばれた船宿がありました。

明治30年(1897)に参宮鉄道が宮川から山田駅まで引かれ、それからは港も衰退していきました。しかし、現在も宇治山田港として、さまざまな船が港を行き来しています。平成17年からは、中部国際空港への海上タクシーも運航しています。



「おんべ願」奉納行事(中巻要領)

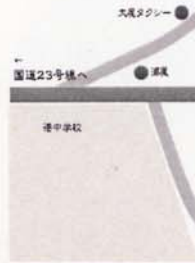
## 勢田川流域 神社港案内

### 御霊神社(辰神さん)

外宮の摂社で、祭神は速秋津日子命、食を司る神です。地元の産土神としても親しまれ、境内には「辰の井」といって井戸があり一月初詣の日には水を分けてもらう人で賑わいます。この水を家の周囲にまくと火災除けになるといわれています。境内におがたまのきという珍しい木が数本あります。この木はもくせん科の常緑喬木で、葉は長楕円形か長卵形で交互に葉がついています。伊勢地方が北限だそうです。

### 清水次郎長と神社港

荒神山の喧嘩の復讐に伊勢にきた清水次郎長一家は神社港に住む伏客、白根要介の仲介により戦わずして勝利を取ったという話が噂話となって伝えられています。白根要介はもと武士で北放刀流の使い手であったといわれています。



### みなとまち館

在りし日の港町の文化を多彩な資料や民具、船具を通して伝えています。屋上展望デッキからは、港から伊勢湾を見通す景色を見ることが出来ます。



明治初め共立汽船、神田汽船両社が熱田港と神社港の間を一日3便運航し、河岸は人と車で錯綜しました。昭和8年の統計によると、入出港船舶合計貨物船16000隻、漁船8160隻、遊覧船1900隻、合計26060隻と、賑やかな港風景が目に浮かびます。



## 神社みなとまちあるぎマップ



## まちの歴史 名所・旧跡

### 清雲院と阿夏の方

清雲院は徳川家康の側室だった阿夏(おなつ)の方の菩提寺です。阿夏の方は津の武家の娘として生まれ、戦国の世を生き、その度胸のよさで家康の危機を救ったこともあり、家康から大きな信頼を得ていました。

阿夏の方は家康公の没後、公への報恩と菩提を弔うため、寛永7年に度会郷山田吹上松原に浄土宗「清雲院」を創建。40年後「なや火事」に罹災して延焼し、山田妙見町にある寿蔵院の東南に当たる尾部の山(青雲院山)に再建されましたが、再度罹災以後、廃寺同様となってしまいました。

御園村小林清林寺住職徳登海順上人は、明治44年神社港善応寺跡の学校用地跡に浄土宗記念教会所を、大正4年8月に清雲院を建立しました。「下瀬」は、毎年10月12日に内宮に奉納され、その行事が今は篠島と神社港の交流の場になり、お互いに「おんべ願」奉納行事を地域の誇りとして、老若男女が参加しています。特に子供たちも吹奏楽、木道り等を行い、行事の興を担っています。

### 御幣綱船の 欽送迎式

篠島からの船による伊勢神宮への「下瀬」の奉納は一時途絶えていましたが、平成10年に復活し、今は神社港がその受け入れ港になっています(かつては河崎まで来ていました)。「おんべ願」といわれる「下瀬」は、毎年10月12日に内宮に奉納され、その行事が今は篠島と神社港の交流の場になり、お互いに「おんべ願」奉納行事を地域の誇りとして、老若男女が参加しています。特に子供たちも吹奏楽、木道り等を行い、行事の興を担っています。



# 一色

【いっしき】

## 地域に受け継がれた「一色能」

一色は、勢田川と五十鈴川との下流に出来た浜州で、通町との間にはかつて中川があり、長さ約20間の橋大橋が架かっていました。古文書によると約800年前、鎌倉時代にはすでに一色という地名が記されています。

一色といえば、まず地域に受け継がれた「能」で知られています。南北朝時代に伊勢国司の北畠氏や、神宮からも保護を受け「伊勢三座」といわれた和谷流(松阪市和谷)、勝田流(玉城町勝田)、青苧流(松阪市射和)が、織田信長に北畠氏が滅ぼされたため神宮を頼って、勝田流が通、和谷流が色、青苧流が竹ヶ鼻に移り住んだといわれています。その後、青苧流は途絶え、現在は二座となっています。

一色能は、現在も地元の一色町能楽保存会によって継承され、中でも「翁」は国の無形民俗文化財に指定されています。また能面や衣裳が三重県、伊勢市の文化財としても指定されており、地元の誇りとなっています。

毎年2月には「通能」が、3月には一色能が、氏神の神社の祭りに奉納され、町外や遠くは県外からも鑑賞者が訪れています。また、伊勢市にはその他、馬瀬町にも「馬瀬狂言」が伝えられています。



一色能

## 勢田川流域 一色 案内

### 塩田、のり養殖そして砂利採取

五十鈴川と勢田川に挟まれた一色は、かつて塩田が盛んで、播州赤穂にも匹敵する良質な塩が生産され、神社港の船廻り屋を通じて遠くは関東方面にも出荷されていました。昭和20年には塩自給製塩協議会が設立され、市営一色製塩場として製塩を始めましたが、長くは続きませんでした。

その後のはり養殖や宮川の砂利採取が盛んでした。色の海岸には宮川の砂利を採掘する砂利船、海苔やアサリ貝採取の船(小ベカ)がたくさん着けられていました。

海苔の養殖も昭和24、5年をピークに伊勢地方一の盛況として高値で取り引きされていました。日当が300円の時代に100枚450円〜600円に落ちたという記録が残っているそうです。

### 十貫松ものがたり

昔、一色の向島の川縁に一本の大きな松が立っていました。商用を兼ね伊勢神宮へ参拝に来た船道者が、両宮を参拝して、取引先の商家から集金して旅籠で銭勘定をしたら十貫文もありました。船待ちをしている時にお金が入った袋をその松の枝にぶら下げていましたが「船が出るぞ」の声でそのまま急いで船に乗り込んでしまいました。船が走り出しても気付かずじまいで、在所についてから思い出しましたがどうすることも出来ません。仕方なくあきらめてかけていましたが、翌年も集金にきて、松の木を見ますと運良く集金袋がお金も入ったそのままぶら下がっていました。それから、いつしかこの松は「十貫松」と呼ばれるようになりました。この話から一色の人々は「一色のものは正直で曲がったことをしない」と胸を張ります。



「一色」のまちの歴史



## まちの歴史

### 一色町台場跡

幕末になって日本を黒船(外国)から守るということで各地に砲台が設置されました。伊勢も神宮を警護するというで久居藩によって二見、今一色、大湊と、一色町に砲台が予定されましたが、砲台そのものは二見以外は作られませんでした。十が盛り上げられた台場跡は、現在は1反8畝2歩の畑になっていますが、地元では今も「台場」と呼ばれて名残を残しています。

### 昌久寺

昌久寺本堂は、元・御師、横村太夫殿の建物です。昭和の初めまで現在の宇治山田駅前、観光文化会館のところにあり、宇治山田市の図書館として使用されていましたが、駅前整備に合わせて、移築したものです。現存する御師の建物が少なくなった今、御師の館を上で貴重な建物です。







# 河崎

【かわさき】

## 【伊勢の台所】河崎の暮らし

河崎は、戦国時代初期(1487年頃)に、地元の豪士である河崎宗次が領有し、防衛のため惣(そう)門と環濠(かんごう)を備えたと伝えられています。

16世紀に入ると伊勢神宮前町の山田・宇治へ物資を運ぶために、勢田川を利用した船による水上輸送と、河崎から物資を荷揚げして、人馬で山田・宇治へ物資を送る陸上輸送を仲介する川の港として賑わいました。東国と西国の多くの人々が往來するターミナル的な商業都市でもあり、戦国時代末期には既に、物流と金融の中心地域だったのです。

江戸時代には「おかげまいり」の参宮客に物資を供給する巨大な問屋街として大きく成長しました。さらに山田奉行より伊勢神宮周辺地域の米と魚の卸売り専売権を認められ、名実共に「伊勢の台所」として全国に知られた商人町となりました。

明治時代に至っても、商業の中心地としての地位を維持し続けました。しかし、戦後になって物資の主力輸送がトラックや鉄道などの陸上輸送にかわるにつれ、商業地の中心は駅周辺へと移っていきました。しかし、河崎には現在も、当時の様子を今に伝える問屋・小売店が店を構え、往時の蔵や町なみを色濃く残す商人町として生き続けています。



昭和9年頃 中橋より北新橋

## 勢田川流域 河崎 案内



### 河辺七種神社・河崎天王さん

河崎の産土神で、ササノオノミコト、音原道真公など日神が祀られています。河辺七種神社の神事(天王祭)は7月14日。伊勢の夏祭り「河崎の人下さん」として親しまれています。近年は、青年による御輿が町を練り歩き、活気のある祭となっています。祭のクライマックスは川辺の町らしく川面を走る金魚花火で、花火が始まると川沿いは幻想的な風情を醸し出します。

### おぼろ

町並みの見どころのひとつは、切妻・妻入りの瓦屋根、「面鏡」「ソリ」「ムクリ」といわれる屋根の形の違いを見比べてみてください。屋根の隅には「隅置」と呼ばれる飾り瓦がよく見られます。家によって亀やカエル、桃など縁起のいいもの水にまつわるものもさまざまです。



瓦置(すまぶた)

### 伊勢河崎商人館

江戸時代に創業された酒問屋「小川酒店」は、川に面した蔵を持つ河崎を代表する商家です(平成13年、国の登録有形文化財に登録)。その建物を伊勢市が修復整備し、平成14年に伊勢河崎商人館として再生。NPO法人伊勢河崎まちづくり会が運営管理を行っています。

母屋や蔵、河崎まちなみ館では資料を展示公開。川沿いの3つの蔵はミニショップが集まった商人蔵です。そして有吾座ホールや茶室、お座敷の貸し室もっており、河崎のまちづくり活動の拠点として賑わっています。毎月第4日曜日は「伊勢のだいご山」が開催されています。

### 河崎の町なみ、土蔵

川に並行に走る通り沿いに切妻屋根が続き、妻入りの町家や蔵が並ぶ、それがお崎の町なみの特徴です。河崎の川沿いの土蔵は、川から直接荷物が出入りできるように川側にも入り口が設けられて、独特の川沿い景観を形成していますが、今では河川改修で堤防越しに見ることしかできません。



しかし、まちのあちこちに昔の面影を残しており、蔵や民家を再利用した新しいお店もできて、懐かしさを感じる町なみとして親しまれています。

### 清浄坊橋

一見の御座敷から外宮に臨む御座敷が勢田川を渡るのがこの橋です。橋の名前は清浄な道ということからきています。

### 沙湯・おかげ稲呂館 旭湯

清浄坊橋の右岸にあるお風呂屋さんですが、かつて二見浦ではじまった海水浴場を内現し、風呂文化の紹介をはじめお川の夜話、銭湯の元祖といわれる伊勢の「湯一」を顕彰したりと、お風呂を通して、まちづくりに取り組んでいます。

### おぼろ

清浄坊橋あたりで、下流から物資を乗せた船の「坂船場」でした。

### 暮らし体験 河崎・南町の家

明治後期に建てられた江戸時代の2階建てを修復し、河崎の生活が体験できる家です。(体験料有料)伊勢河崎商人館が管理運営しています。



## まちの歴史 名所・旧跡

### 環濠と惣門

江戸時代の地誌(ガイドブック)では、河崎は環濠と5つの惣門を備えた自衛都市として紹介されています。江戸時代の多くの絵図にも勢田川を利用した水路である環濠と土塁が描かれています。現在ではその多くは暗渠化していますが、一部にその痕跡を見ることが出来ます。

### 河崎三橋(南新橋、中橋、北新橋)

勢田川に架かる河崎地内の三つの橋を河崎三橋と呼びます。上流の南から南新橋、中橋、北新橋の順で架かっています。当初は戦国時代の天文13年(1485)に架橋したといわれる河崎大橋(現中橋)だけでしたが、安政4年(1857)に右岸(向河崎)で大火があり、消火活動などが不便であったので、翌年の安政5年、山田奉行に申請し、北と南にそれぞれ200メートル離れた場所に大橋と同じ太鼓橋の木橋を造りました。現在の橋は勢田川改修の際、架け替えられたものです。



河崎は問屋と製造者が連携して存続に取り組んでいました。



# 名勝 二見浦ものがたり

## 日本の古き良き海辺のまち

歌枕の地として……  
清き渚と称され万葉の昔から佳景を讃えられてきた二見浦。その想いが詠み残され、西行、芭蕉をはじめ多くの文人がこの地を慕っている。

### 倭姫命のおはなし

●二度振り起った  
垂仁天皇の時代、天照大神神座の地を求め、倭姫命が御杖となり、伊勢平野を越え、海に舟を浮かべ、二見浦に立ち寄った。その美しきゆえに、二度振り起ったと伝えられている。そのことから「二見」と名がついたと言われている。

●重箱のおもてなし  
倭姫命を迎えた佐見津日女命が重箱をもっておもてなしをした。この重箱に倭姫命は喜び、神宮へ供進する御塩は二見浦から奉るようにと定めたという。

●五十鈴川の釣り鳥と御座石  
倭姫命が日没に舟を泊め、三津の御座山の川の突出部に宿をとった。これが釣り鳥と言われる場所であるが今は跡をほとんど見ない。また五十鈴川を上ったときに、途中腰をおろして休んだと伝えられる御座石が川岸に残っている。水位があると隠れてしまう。

### 二見かえる

二見興玉神社の御祭神・猿田彦大神は天孫君臨のとき、道案内をし、古くから交通安全の守護神として広く信仰されている。かえるはその大神のおつかいと言われている。今では無事かえる、貰したものがかえるなど縁起のよい二見のお守りキャラクター。かえる語りも人気。

### なつかしの二見名物!

生薑糖…お土産に喜ばれる生薑糖を特製し売りに出している。  
石仙糖…常滑で修行後、二見で開業した石仙。朱泥や紫色の薬地に型押しした菓子。  
まぎえ…店先で煮るさざえのつぼ焼きは香ばしい匂いだ。  
貝類工…浜辺のよき思い出に。  
アメ…浜参りに来た人たちが、アメをお土産に買ったそう。

### 醸造の魂・味噌・醤油・酒

江戸中期には、五十鈴川支流の河口・江に醸造業者がで、酒造により各地へ運ばれ、江味噌として評価された。今でも味噌蔵が通りに沿って建つ。また今色では神間五で「建合(五正宗)」という酒を作っている。

### 漁業の町 今一色の伊勢鱒

今一色には鱒を造る職人がいて、伊勢鱒と銘打って有名であった。もともとは造船用の釘製造から始まったと考えられている。型の種類も多く、切れ味の良さは三車、愛知で評判となり、船で大量に積出された。

### 西の庚申さん、日待供養塔

松、タブ、橘の造る曲がり角に庚申堂がある。享保14年(1729)と刻まれた青銅製の庚申堂が安置されている。庚申は、日本最古といわれる六字名号日待供養塔がある。

### 神宮の摂社・末社・所管社

神前神社(アマテラス)、許母利神社(タマケミ)、荒御神社(アマノコ)、松下の山の頂上に鎮座する。伊勢勢を元祖する皇孫の地。皇皇子神社(アマノミコ)、倭姫命に御養え奉った海深人の神を祀る。海岸の向こうに飛鳥が見える。江神社(エガハ)、祭神は五穀守護の三柱の神。併に蔭籠明神とも称される。御座神社(ミマタ)、倭姫命を出迎えた佐見津日女命のために造られた神社。御座神社境内には神楽と御塩御殿、裏の松林に御塩焼所と御塩汲入所があり、神宮の御塩を千年の昔から扱っている。

### 神宮の供物

御塩 御塩から神饌である塩を食の神様・外宮へと運んだ道。奉られた堅塩を辛味におさめ、戦後まで約8%の道のりを歩いていた。

### 御塩道

御塩道から神饌である塩を食の神様・外宮へと運んだ道。奉られた堅塩を辛味におさめ、戦後まで約8%の道のりを歩いていた。

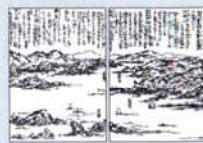


### 太陽信仰 夏至の夫婦岩

日の出の名所・二見浦。夏至には夫婦岩のちょうどまん中から一年で一番強い太陽が昇る。夜から朝へ、冬から春へ、太陽の恵みを祈り、五穀豊稔を願う。夏至祭には夫婦岩前で観ぎを行う。

### 浜の名前

浜に面した二見浦には趣のある浜の名称がついている。



### 江の巻江松(蔭籠松)

入り江を巻いて陸のように松が並んでいたのが巻江松と呼ぶようになったとか。江神社を別名・蔭籠明神といい、神社付近のことである。  
五くげ 二見の道の貝しげみ きき虫に見ゆる 松のむら立 『金葉集』(1127)大正中編弘

### 妻入りの木道建築

原館には明治の頃の木道の建物が並んでいる。神宮の平入りに対し、同じでは恐れ多いと、妻入りの造りが多い。



### 江の猿田彦石

河口が大きく広がって、村が南の谷にあったころ、太江寺の鎮守・興玉神がこの大岩に寄り付いたと言われている。また近くには清水が湧き出る弘法(新道)の井戸もある。



### 荘 不断寺 円空仏

円空作の草駄天(高さ19.5m)が祀られている。延宝初期(1672)に、伊勢志摩地方を巡遊したときのものとされている。

### 二見小学校校歌

一番は明治天皇 二番は昭憲皇太后の御製 ありがたい校歌である  
五十鈴川 清き流れの すくみて ころをあらへ あさつばまを さいのぼる 朝日のこづく さわやかに またまほしきは ころなりけり

### 三津渡・伊勢の浜藪

明治7年(1498)の大地震による大津波で五十鈴川の地形が変わった。それまでは浦口から江に流れる今の浪川が本流で、川幅も広く船も行き交っていた。神宮と二見の往来には船が主流であった時代もあり、三津は船着き場として非常に栄えた。また西行も三津渡から船出したようだ。三津浦の近くには浜藪が描かれている。歌人・基理越が伊勢に旅に出た時、妻がの身を心配して詠んだ歌がある。  
神風の 伊勢の浜藪なりおきて 飛来やすらむ 荒き波辺に 『万葉集』



### 三津 明皇寺 木造薬師如来坐像

松材の木造で国の重要文化財である薬師如来が祀られている。荒木田・度会神主寄進の書あり。金剛寺の末寺である明皇寺は天正元年(1573)開基で、ほかに毘沙門天や不動明王の像を安置する。

### 鷲海神事(神前海岸) 藩刈神事(二見興玉神社)

明治の頃まで神前の宮嶺(御嶺)で海草や貝を採り、内宮にお供えする鷲海神事が行われていた。神前海岸では漁れ獲れた魚をよく見かける。これは二見興玉神社のお産に使用される無垢海草。毎年5月21日の藩刈神事では、興玉神社付近の海中から藻を採取している。  
五くげ 二見瀬に すむまの わたはびきさけ みもめなりけり 『新撰集』(平安時代中期)凡河内躬恒



### 二見十景

●二見名所考  
昭和3年発行、著者紀山居士こと松本正純による二見の名所旧跡十通。

**夫婦岩**  
夏空の頃の日の出が有るだが、冬場の満月をもちょうど夫婦岩の真ん中から昇り、霞々と夫婦岩を照らす。

**五十鈴川**  
内宮奥の高麗原を源流とし、神域を抜け海岸で2本に別れ。二見を囲むように流れている。昔は川幅数百メートルあった。

**御塩殿**  
伊勢神宮に奉納する塩を作っている。御塩で冷んだ海水を荒塩にして10月5日の御塩御祭りと3月9日に堅塩に焼き固めている。

**清島(石)**  
神前灯台の崖下にあり、干潮時にしか訪れることのできない石門。東皇子神社を遷す場所でもある。

**高城垣**  
明治4年(1871)の神宮造営前まで外宮の神宮が威い身を飾り、海水を浴び身を清めていた。冬になるとのりそだ立つ。

**張袋(片巻の葎)**  
神風が強く吹き、葎が引籠りに寄って倒れたとか。昔は葎草と言われるほど広範囲に生えていた。田んぼそばの水路で青々とした姿を見ることが出来る。

**西行庵**  
晩年の足掛け7年を二見の安楽山で過ごした西行。五峰山の西の麓の小さな丘が笠石山で、ここが安楽山と呼ばれる。

**太江寺**  
平安初期の真言宗密教聖徳の開創といわれるが行基との説も。伊勢神社の一番礼所。本堂には国の重要文化財・千手観音坐像が安置されている。ベットの寺としても有名。

**音無山**  
伊勢平野の南にある標高約120mの山。伊勢三郎義盛の館があったため地元では「三郎山」とも呼ぶ。

**清渚**  
二見は今一色より東は松下に至るまで、二見海岸一帯の地形。白波寄せる砂浜で静かに過ごすのもよい。

絵図引用:『伊勢参宮名所図説』、『神部名勝録』



## 2 宇治山田港へのアクセスづくり

### 施策1 海上アクセスの整備

#### 1 伊勢湾・三河湾

プレジャーボート等による常滑港など、環伊勢湾・三河地域へのアクセスづくりを視野に入れ、クルージングネットワークの確立など、海上アクセスの整備を促進します。



#### 2 宇治山田港(勢田川・五十鈴川)

伊勢市都市マスタープランにある『勢田川歴史文化交流軸』の整備を進めます。また、朝熊山麓広域交流拠点とをつなぐ五十鈴川ルートを検討します。



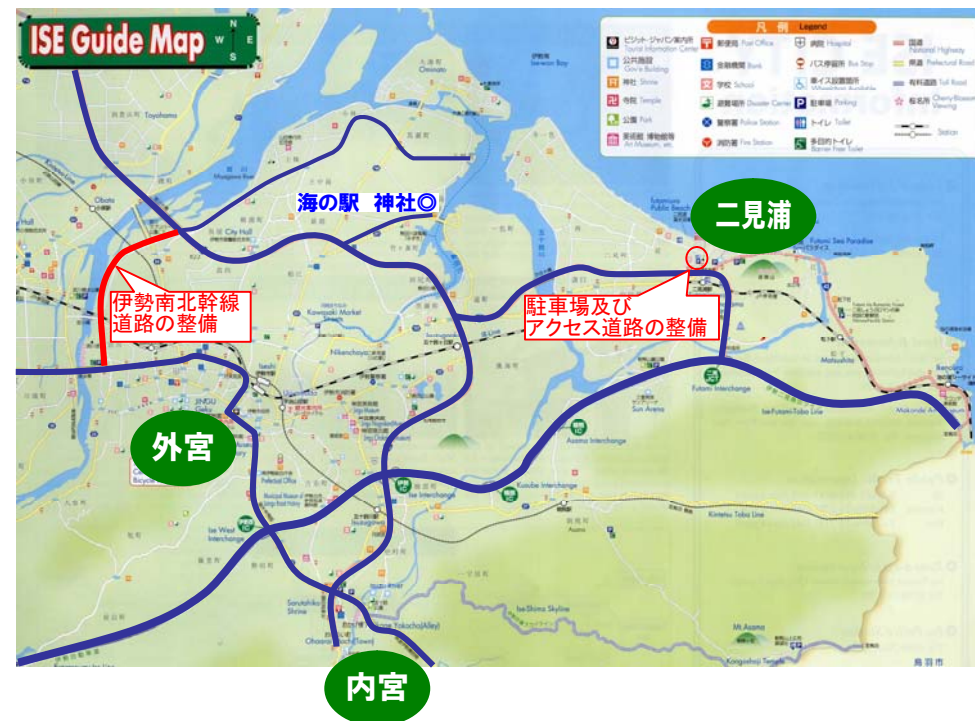
### 施策2 陸上交通の整備

#### 1 臨港道路の整備

市内幹線道路とつなぐ臨港道路を整備し、外宮・内宮等交流拠点、観光資源と有機的に結びます。

#### 2 交通結節点の整備

交通広場、駐車場など交通結節点の整備を進めます。



方針



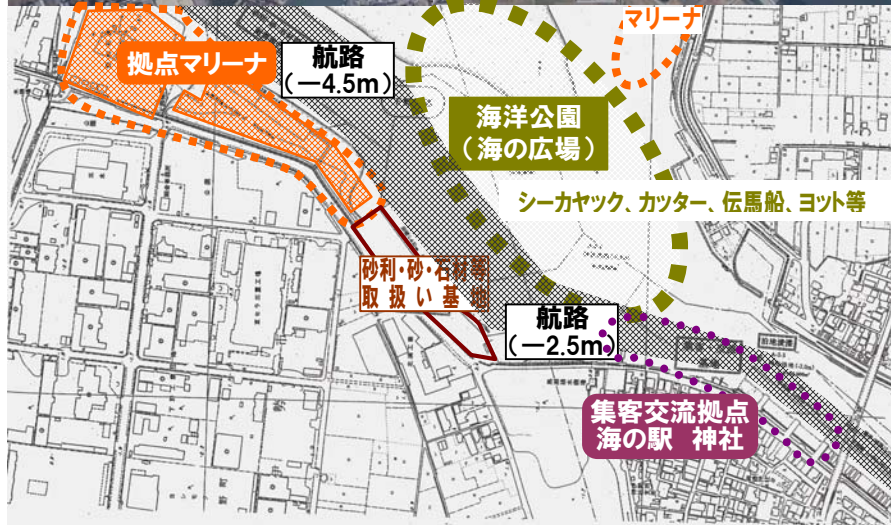


# 3 集客と交流拠点づくり

## 施策1 広域交流拠点づくり

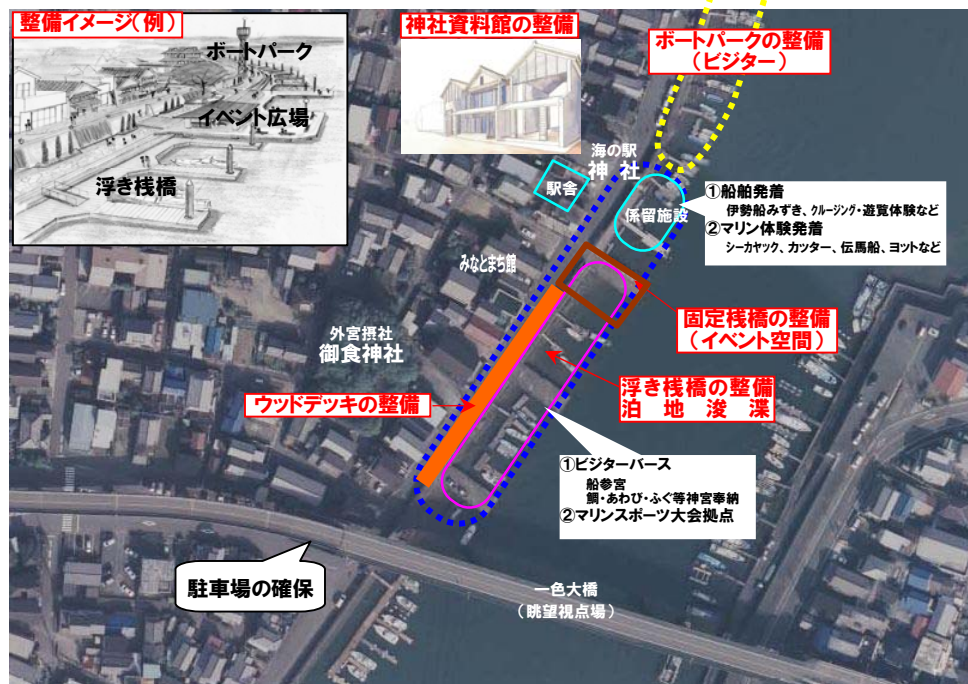
### 1 宇治山田港 広域交流拠点整備構想

市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒す「みなとまちづくり」の活動拠点としての宇治山田港交流拠点整備構想を提案します。



方針

## 海の駅神社 拠点ターミナルとしての整備・活用イメージ



## レクリエーション拠点としての活用イメージ(例)





## 施策2 クルージングネットワークづくり

### 1 交流ネットワークの確立

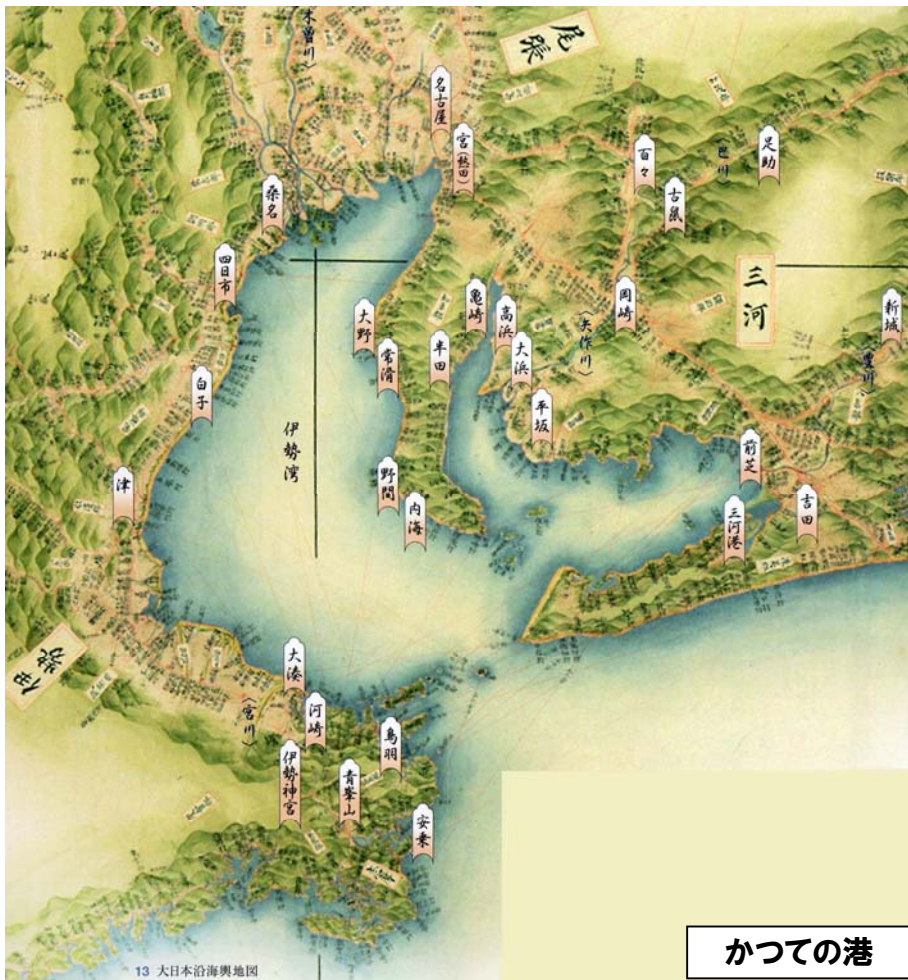
プレジャーボートを活用した地域振興・交流機能の充実を図るため、伊勢湾・三河湾・遠州灘等のマリーナ等と連携したクルージングネットワークの確立をめざします。

### 2 クルージング受入機能の整備

クルージングの受入が可能となるマリーナなどの整備と背後地のまちづくりを進めます。

### 3 クルージング体験イベントの実施

交流ネットワークの確立と海上アクセスづくりに向け、既存マリーナ協力のもと、クルージング体験イベントを実施します。



13 大日本沿海輿地図

かつての港

## 施策3 川の魅力づくり

### 1 川の魅力づくり

- ①賑わいの中心となるような魅力のある水辺空間の創造
  - ・川の駅・海の駅整備を進め、川から見た風景を考えた水辺空間整備を行います。
- ②河川空間と商業空間が一体となった新たなまちの醸成
  - ・歴史的町並みを眺めながら沿川を散歩し、人が集うことのできるような空間整備を行います。
- ③住民参加による環境整備
  - ・宮川からの清流を利用し勢田川浄化に取り組んでいます。住民参加による「七夕おおそうじ」や「水質浄化目的のとうりゃん瀬」等の事業をさらに進めます。

### かわまちづくり

(平成21年5月22日国土交通省認定)



### 環境マップ





## 施策4 海岸の魅力づくり

### 1 宇治山田港海岸 大湊地区

大湊地区海岸は、「自然に親しみ、歴史を感じさせる海岸」をテーマとし、「ふるさと海岸整備事業」として平成4年度から11年度に海岸整備事業が行われました。地域住民やNPO等地域が連携協力し、自然環境や地域固有の歴史をいかした魅力ある海岸づくりをすすめます。

### 2 宇治山田港海岸 二見地区

日本で初めて海水浴場に指定された由緒ある海岸です。砂浜は侵食によりかつての風景を失いつつあり、堤防の老朽化も見られることから、平成12年度より海岸整備が行なわれています。青少年や地域住民との世代間交流の場、自然・社会教育の場、マリンスポーツの場としてユニバーサルデザインにも配慮した利用しやすい魅力ある海岸づくりをすすめます。

方針





# 施策5 サイクリング・ウォーキングルートづくり

## 1 サイクリング・ウォーキングルートづくり

みなとを核としたサイクリング・ウォーキングのモデルコースを検討します。



方針



## 施策6 歴史・文化の継承

### 1 宇治山田港の豊かな港湾史の研究

伊勢郷土会を中心に港湾史の調査研究を進め、歴史・文化の継承に努めます。

### 2 資料館の建設

港湾史の調査研究成果、地域あるいは個人で所蔵している宝物の展示を行い豊かな歴史・文化の継承に努めます。

### 3 まちかど博物館の整備

まちかど博物館は市民の手による手づくりの博物館です。『人間だれでもちょっとした場所さえあれば、自分の好きなものや誇れるもの、楽しみをもとに博物館の一つくらいはつくれる』を基本テーマに市民のまちおこし団体『ザ伊勢講』により始められました。

地域内では、ゴーリキ（大湊）、かどや民具館（二軒茶屋）、味噌たまり蔵資料館（二軒茶屋）、和具屋（河崎）が指定されています。まちかど博物館の整備を促進し、地域資源としてまちづくりに活かします。

### 4 河崎歴史文化交流拠点の整備

勢田川沿いを中心に河崎のまちなみを面的に再整備し、土産物店や食べ物店の集積を図り、また歴史的建築物を展示館など利活用しながら歴史と観光が一体化した新たな伊勢の交流拠点の創出を目指します。

### 5 二見町茶屋地区観光交流拠点

二見浦の風光明媚な自然景観の保全と歴史的・文化的な趣が色濃く残る街並みの整備を進めるとともに、地域住民が主体となるイベント等の開催による誘客に努めます。

### 6 歴史・文化のネットワークづくり

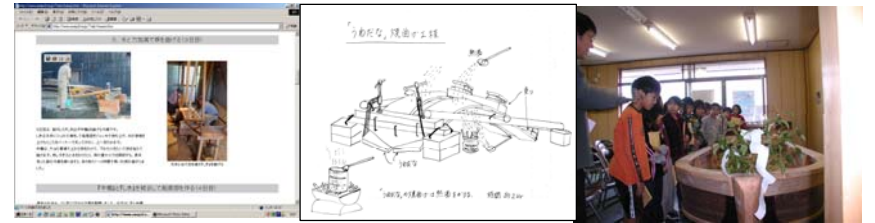
『まちの宝物』として市民が選んだ地域資源をネットワーク化した散策ルートづくりを進めます。

### 7 能楽舞台の建設

遠く神宮の神領であった神三郡と呼ばれた地に伊勢三座（和谷流、勝田流、青尾流）といわれた三つの猿楽の座がありました。伊勢三座は室町末期に後を保護を受けていた国司北畠氏が滅んだので、神宮との関係を一層深め、和谷流が一色、勝田流が通、青尾流が竹ヶ鼻に移り住みました。一色の能面は現在41面現存する中、江戸初期以前のもの12面。なかでも能楽発生のものも含み、いずれも独創的な優れた造形美を秘めています。能装束も豪華絢爛たるものです。能楽舞台を建設し、貴重な『まちの宝物』としてまちづくりに活かします。

### ・伊勢ゆかりの木造船建造『匠の技』伝承 伝馬船建造・記録保存

(主体：NPO法人神社みなとまち再生グループ 支援：宇治山田港湾整備促進協議会)



### ・資料館『神社みなとまち館』整備 (主体：NPO法人神社みなとまち再生グループ 支援：宇治山田港湾整備促進協議会)



### ・伊勢地域活性化に資する木造船建造・技術伝承

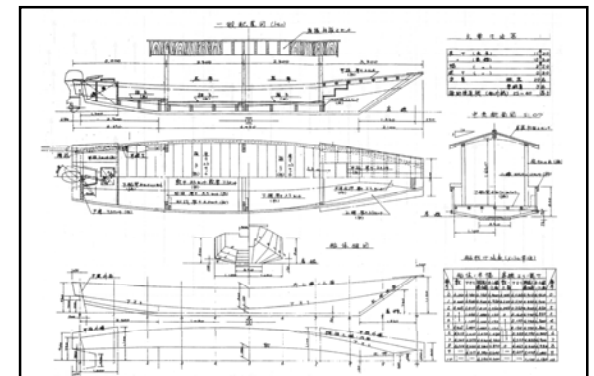
主体：(社) 東海小型船舶工業会

支援：宇治山田港湾整備促進協議会 NPO伊勢『海の駅・川の駅』運営会議



### ・歴史文化案内版等の整備

(主体：各地域)





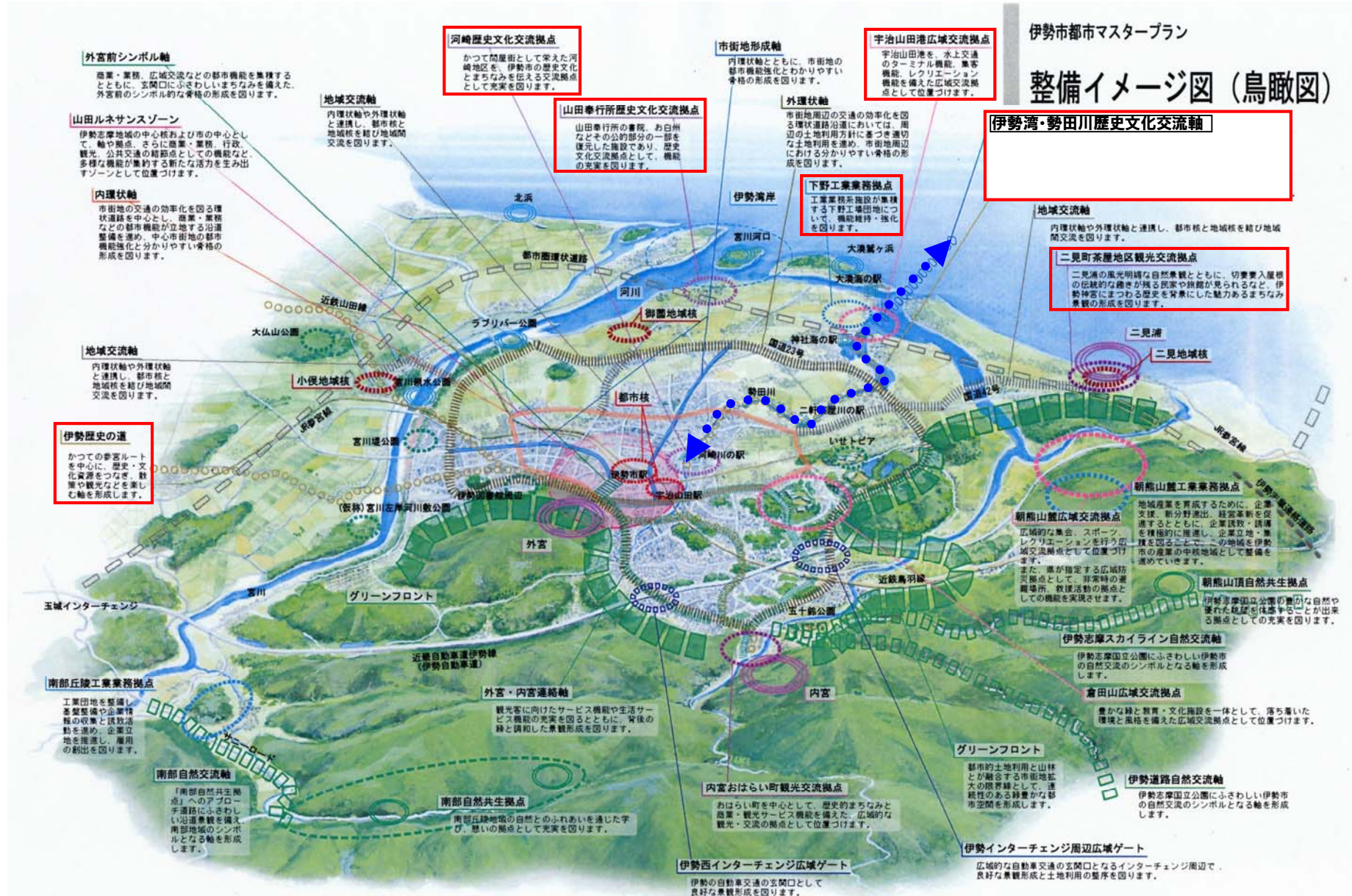
# 施策7 市域内交流拠点・観光資源との連携

## 1 市域内交流拠点・観光資源との連携

伊勢市都市マスタープランで掲げる他の交流拠点、観光資源との連携をすすめます。

伊勢湾・勢田川歴史文化交流軸 みなとまちづくりに関するもの

方針





# 4 地場産業の振興

方針

## 施策1 造船業の振興

- 1 修理等ホスピタル機能の付加
- 2 造船技術者の育成
- 3 伊勢造船マイスター制度の実施
- 4 FRP船リサイクルシステムの検討

## 施策2 漁業の振興

- 1 荷捌き場の整備
- 2 後継者の育成
- 3 地域ブランドの確立
- 4 観光漁業の確立
- 5 販売ルートの確立

## 施策3 農業の振興

- 1 朝市
- 2 観光農園・市民農園の整備
- 3 花栽培

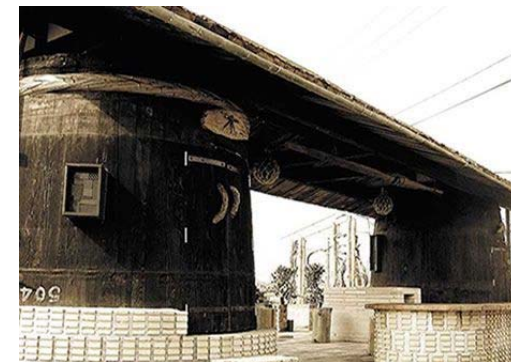
## 施策4 新産業の創造

- 1 マリーナ業
- 2 小型客船等の運航業

干物作り体験



野外レストラン「ご馳走樽」



魚釣り&魚さばき体験



車えび放流



花栽培



ポートヤード



市民農園



市





# 5 防災機能の強化

## 施策1 海の防災活動拠点整備

### 1 緊急物資輸送基地の整備

宇治山田港海の駅神社付近にある公共棧橋、公共埠頭の機能を強化し、震災時における海からの緊急物資輸送の活動拠点として整備します。



公共棧橋



公共埠頭

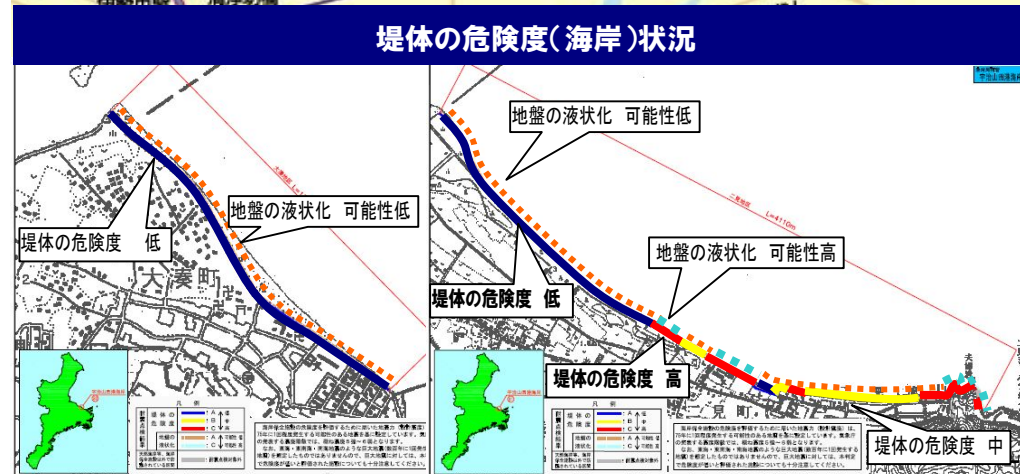
方針



## 施策2 護岸の整備

### 1 港湾・海岸の整備

防災機能の強化を図るため、耐震性の低い護岸の整備を進めます。





# 6 交流の推進

## 施策1 交流の推進

### 1 地域間交流の推進

現在、篠島、常滑と交流がおこなわれていますが、クルージングネットワークの確立を視野にいれ、伊勢湾、三河湾、遠州灘等の諸都市との交流を推進します。

### 2 地域振興イベント

祭りや地域振興イベントにより交流を推進します。

#### ・御幣綱船 歓迎



#### ・伊勢二見シーカヤックマラソン大会



#### ・どんどこ祭り



#### ・常滑との交流



#### ・伊勢マリンフェスティバル



#### ・港まつり



方針



# 7 マリン・生涯学習の充実

## 施策1 マリン・生涯学習の充実

### 1 マリン(海洋)教育の充実

関係者が協力連携し、ヨット・シーカヤック・伝馬船などの体験イベントを開催するなど、マリン(海洋)教育の普及・充実に努めます。

### 2 生涯学習の充実

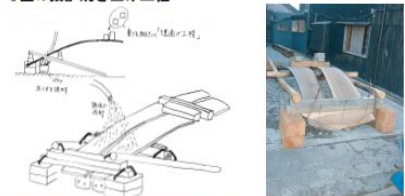
歴史文化あふれる宇治山田港を題材とした「みなと」に関する講座や見学会の開催など、生涯学習の充実に努めます。

### ・伝馬船建造学習会

毎日新聞 平成15年10月24日(金)



『匠の技』焼き曲げ工程



毎日新聞 平成15年12月1日(月)



神社小学校 5年生見学会



### ・港中学校 カッター教室



### ・神社みなとまち館見学



### ・クルージングワークショップ(川の駅『河崎』⇔ 海の駅『大湊』)



### ・見学会(川の駅『二軒茶屋』<まちかど博物館>)



方針



# 8 プレジャーボート対策

## 施策1 水面利用に関するルールづくり

### 1 水面利用のゾーニング

自治会、漁協、遊漁船組合、NPO、行政など関係者による協議の場（プラットフォーム）を設け、水面利用の考え方を整理し、地域が主体のルールづくりを行い、プレジャーボート対策をすすめます。

水面利用の考え方



方針

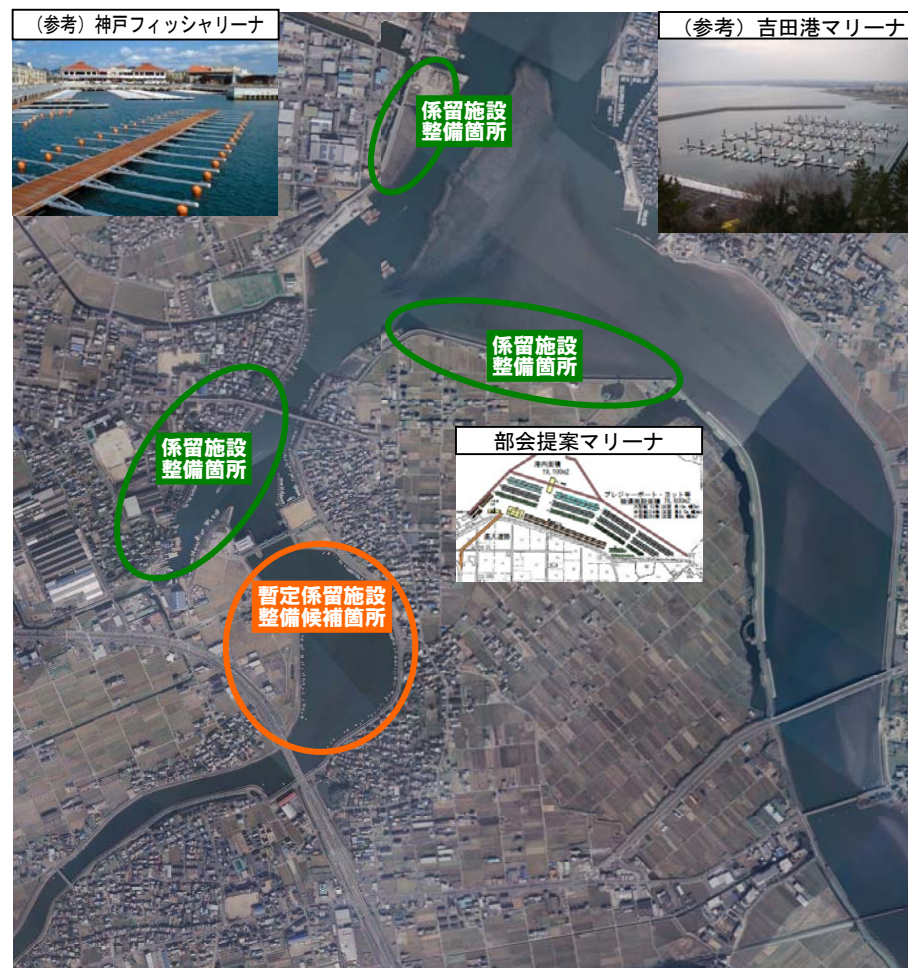
## 施策2 施設整備などの受け皿づくり

### 1 係留施設の整備

係留・保管施設整備計画を策定し、計画的に施設整備をすすめます。  
計画の策定にあたっては、他の計画や地域の意向、自然環境等の把握に努めます。

### 2 係留施設の管理・運営

自治会、漁協、遊漁船組合、NPO、行政など関係者が連携し、適切な役割分担のもと、係留施設の管理・運営を行います。





# V 第2期アクションプログラム（今後概ね10年間）

## 1 プレジャーボート対策の推進

### 1 プレジャーボート対策

行政に協力し、水面利用に関するルールづくりや利用者への啓発など無秩序な係留船舶の是正に努めます。

- (1) 行政が設置した「勢田川等水面利用対策協議会」に協力し、水面利用に関するルールづくりや施設整備などの受け皿づくりの検討をすすめます。
- (2) 行政に協力し、水面利用者への啓発など無秩序な係留船舶の是正に努めます。

## 2 みなとの活用

### 1 集客と交流拠点づくり

関係者と協力連携し、集客と交流拠点づくりをすすめ、歴史と伝統のある宇治山田港のさらなる活用を図ります。

- (1) 広域交流拠点づくり
  - ・みなとの拠点施設として、海の駅神社の利活用を図ります。
  - ・伊勢市都市マスタープランで掲げる広域交流拠点形成に協力します。
- (2) クルージングネットワークづくり
  - ・クルージングネットワーク確立に向け、伊勢湾、三河湾等の既存マリーナの協力を仰ぎ、体験イベントを実施します。
  - ・集客と交流をめざし、環伊勢湾・三河湾との地域間交流をすすめます。
- (3) 川の魅力づくり
  - ・平成21年5月22日に国土交通省から認定を受けた川まちづくりと連携し、川の魅力づくりに努めます。
- (4) サイクリング・ウォーキングルートづくり
  - ・体験イベントを開催し、みなとを核としたサイクリング・ウォーキングのモデルコースを検討します。

## 3 地域が主役となる「みなとまちづくり」の展開

今後も、みなとをテーマとする観光交流体験イベントの開催や、地域資源の発掘、伝統技術の伝承など、自治会やNPO等地域が主役となりまちづくりをすすめ、地域が主役となる、豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした「市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり」に取り組みます。

- 1 『まちの宝物』発掘・活用
- 2 交流の推進
- 3 マリン・生涯学習の充実



## VI 構想推進に向けて

### 1 プレジャーボート対策の推進

宇治山田港には約 950 隻の小型船舶が係留されていますが、ほとんどが放置されている状況にあります。これら放置艇等は一般的に①係留場所の私物化・利権化、公共施設の破損、沈没船化、②無秩序な艇の集積による船舶航行の支障、③洪水・高潮時における流水の阻害、艇の流出による災害の発生、④安全管理の不十分さに起因する事故や遭難、漁業操業者とのトラブル、⑤違法駐車、騒音、ゴミ・油の不法投棄、景観の悪化等の問題を引き起こしていると言われており、宇治山田港も例外ではなく、プレジャーボートによる公共水域等の利用の適正化が求められています。

また、いつ起こってもおかしくないと言われている東海地震、東南海・南海地震に伴い発生する津波来襲時の二次被害の懸念も高まっており、プレジャーボート対策が急がれます。

宇治山田港湾整備促進協議会は、所有者の自己責任の徹底や製造・販売事業者の取組はもちろんのことですが、年次計画を定めた上での、規制措置と係留保管能力の向上とを両輪とする地域、行政等関係者の連携によるプレジャーボート対策の推進を強く求めます。

### 2 みなとの活用

宇治山田港は歴史文化豊かな港です。五十鈴川、勢田川の河口に位置する河口港で、「大湊」、「神社」、「河崎」の3つの港からなり、古くから全国各地の『お伊勢まいり』客を乗せた船や外来の物資を集散する様々な船が往来していました。

「大湊」は神宮用材の貯木場があり、神宮の御厨、御園からの貢進を受け入れた港でした。木造船業が発達し、豊臣秀吉が朝鮮出兵に使った日本丸を建造するなど古くから造船のまちとして栄えました。「神社」は五十鈴川、勢田川に通じる水運の要地で、外来の物資が集散する幾多の船が往来し、これに伴う海運業や船宿を営むものも多く、三河、知多、遠州方面からの航路が開かれ、参宮客の海の玄関口として栄えました。「河崎」は勢田川の水運を利用し、地域の住民と年間数百万人に達する参宮客（往時の日本の人口の約5分の1が参詣）の台所として繁栄し、物資を供給する問屋街としても賑わいました。

また、宇治山田港は風光明媚な海岸を持ち、「日の出」で全国的に有名な夫婦岩や明治15年に日本ではじめて海水浴場が誕生し、海水浴場発祥の地として公認された二見浦海水浴場もあります。

かつての船参宮の再現やみなとに関する伝統行事、地域間交流、海の体験交流イベントの開催など、地域のNPOなど関係者が連携し、海洋性レクリエーションの振興に努めるなど、海の駅神社を核とした伝統ある宇治山田港を新たな海の玄関口として再生・活用していくことを提案します。

### 3 地域が主役となる「みなとまちづくり」の展開

「みなと」を核とするまちづくりの取組は、平成15年9月8日に国土交通省港湾局より「みなとまちづくり」に関するケーススタディ港の選定を受け、宇治山田港湾整備促進協議会が事業主体となり、みなとまちづくり談議、伝統行事による地域間交流、伊勢ゆかりの木造船建造『匠の技』伝承、舟運に係る社会実験を行なってまいりました。また、同年9月12日には、観光振興を核として交流人口を拡大する地域づくりを推進するため、国土交通省の観光交流空間づくりモデル事業の対象地域に伊勢二見地域が選定され、宇治山田港湾整備推進協議会は、事業主体である伊勢二見地域観光交流推進協議会（平成15年6月設置、平成21年3月解散）に協力し、みなとをテーマとする観光交流体験イベントの開催、地域資源の発掘、伝統技術の伝承など、自治会やNPO等地域が主役となりまちづくりをすすめてまいりました。

今後も、地域が主役となり、豊かな歴史と文化、風光明媚な自然、活発な市民活動を背景とした「市民や訪れる人々がふれあい、あまねく人々を癒すみなとまちづくり」に取り組んでまいります。